
今 日 の 力

2025年11月10日～11月16日

翻訳 キャンベル 栄子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています

※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

11月10日(月)

わ た し は あ る

聖書朗読 ヨハネの福音書 8：48～59

神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」…これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。

出エジプト 3：14、15

ある動画を見ていたとき、若者がイエス様のことを気軽に“アツ”と呼ぶのを聞いて、私はとても驚きました。そしてこの言葉を聞いた瞬間、今日の聖書朗読を思い出しました。それはイエス様がご自身のことを『わたしはある』と呼ばれたことです。これは神様のもっとも神聖なお名前です。

信仰深いユダヤ人たちは、この御名を冒涜するのを恐れ、口にしませんでした。（編注：出エジプト 20：7）書物を手書きで複写していた古代には、ユダヤ人の書記は、この御名を書くときには必ず新しいペンを使い、書き終えるとそのペンを処分したといいます。

ですから、イエス様が今日の聖書朗読箇所で『わたしはある』と言われたとき、そこにいた人々は、イエス様が何を言おうとしておられるのかをはっきり理解しました。つまり、イエス様こそ全能なる神様ご自身であると宣言されたのです。なるほど、ユダヤ人たちが石を取ってイエス様に投げつけようとしたわけです！ 彼らは、イエス様が本当は誰なのかを理解していなかったのです。

では私たちはどうでしょうか。今日の形式ばらない文化の中で、私たちもまた神様の御名を軽んじてしまう危険はないでしょうか。イエス様は道端にいるただの“人”ではありません。イエス様はいと高き神であり、私たちの最大限の栄誉と尊敬を受けるにふさわしいお方です。今日、この偉大な『わたしはある』と名乗られるお方の前に立ち止まり、礼拝しましょう。

讃美歌 75 ものみなこぞりて

祈り いと高き主よ、御名があがめられますように。私たちが言葉を口にするとき、行うとき、すべてにおいて、あなたへの敬意を表す者でありますように。偉大な『わたしはある』であられるキリストを通してお祈りします。アーメン。

テキサス州 ラボック／ジャン・ノックス

11月11日(火)

盲目よりも見えないもの

聖書朗読 ヨハネの福音書 9：13～34

『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。』

マタイ 9：13

どの時代にも、パリサイ人のように、何かとがみがみ騒ぎ立てるのが得意な人たちがいます。彼らが何について騒いでいるのかを見ていると、興味深いと同時に、時には悲しいほどに滑稽に思えることもあります。

イエス様の時代のパリサイ人たちは、安息日にイエス様が盲人を癒されたことで文句を言っていました。その議論の中心には、以下のような彼らの基本的な信条がありました。

- 神の前に正しいとされ、神に受け入れられるためには、良い人でなければならない
- 良い人になるためには、律法を守らなければならない。
- 最も良い人とは全力を尽して律法を守る人である。

しかし、これらのパリサイ派の基本的信条はどれも真実ではありません。どれひとつもです。神様が私たちを受け入れてくださるのは、私たちの良さではなく、キリストの良さゆえです。規則は人間のために設けられたのであって、人間が規則のために造られたのではありません。(マルコ 2：27) そして誰ひとりとして規則を完全に、ほぼ完全にすら守れる人はいないのです。(ローマ 3：12、23)

自分のことや、“規則を守ること”ばかりに目を向けている限り、私たちは高慢にとらわれてしまいます。キリストとそのいつくしみに心を向けるとき、私たちは自分自身を忘れ、私たちの人生における主のみわざに感謝し、喜んで主を賛美するようになります。

讃美歌第二編 167 われをもすくいし

祈り 最愛なる主よ、光の創り主よ、盲人の目を開き、この世を照らしてくださる主を賛美します。イエス様の御名によって。アーメン。

テキサス州 ミュールシュー／カーティスK・シェルバーン

11月12日(水)

イエス様は羊のためにご自分のいのちを与えられた

聖書朗読 ヨハネの福音書 10：11～21

人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていないません。

ヨハネ 15：13

数年前、ある大学野球の監督が、自分のチームの選手へ移植のための腎臓を提供したというニュースがありました。監督は「チームの仲間を助けるためなら何でもする」と語り、その言葉を行動で証ししたのです。

イエス様はこう言われました。『わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。』(ヨハネ 10：11) 私たちの牧者であるイエス様は、その御言葉を十字架上で実証されました。主が耐え忍ばれた肉体の苦しみを考えると、私たちはその犠牲的な愛に驚かされます。しかし罪のないお方が、私たちと、この世のすべての罪を背負われ、それを永遠に取り除いてくださった代価の重さは、私たちには想像することできません。『神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。』(コリントⅡ 5：21) このような贈り物は素晴らしい過ぎて私たちの理解を超えていきます。

死に向かっていたたましいは、イエス様のいのちに満たされたたましいに置き換えられました。罪に縛られ、死の宣告を受けていた私たちは、今や癒され完全なものとされました。羊のためにいのちを捨てられる良い牧者に対して、私たちは喜びと感謝に満ちた人生をもって応えずにいられるでしょうか。

讃美歌 514 よわきものよ

祈り 愛する主よ、あなたの牧場の羊である私たちは、ひと息ごとに、あなたを崇めます。あなたは私たちを愛し、導き、私たちの罪とがを永遠に取り除くためにいのちを捨ててくださいました。イエス様の御名によって。アーメン。

テキサス州 ミュールシュー／カーティスK・シェルバーン

11月13日（木）

次に起こることに備える

聖書朗読 ヨハネの福音書 12：1～11

マリヤは、非常に高価な、純粋なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。…イエスは言われた。「そのままにしておきなさい。マリヤはわたしの葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです。

ヨハネ 12：3、7

それは必ず起こることへの備えでした。イエス様は死を味わわなければなりませんでした。それは、復活を通して、完全なる天の御父とひとつになるためでした。私は日々、天の御父から自分を遠ざけてしまう悪い思いや行ないをきちんと脱ぎ捨てていますか。これは私たちが行わなければならないことです。（コロサイ 3章）

それは埋葬への備えでした。マリヤの心からの美しい行いは、実はイエス様が避けることのできない残酷な死と埋葬のための準備でした。それは清めであり、その場を香油のかおりで満たしました。私は靈的な埋葬の準備をしているでしょうか。バプテスマにおけるイエス様の血による清めは、全きお方であるイエス様のかぐわしい香りであらゆる場所を満たすでしょう。（コリントII 2：15）

それは次に起こることへの備えでした。イエス様は罪と死に勝利され、再び来て、ご自分の者を迎えてくれます。私はその準備ができているでしょうか。また、周りの人が準備するのを助けていますか。油断せず、目をさまして、希望を持って待ちましょう。
(マタイ 25章) これから最高の時がやって来ます。

讃美歌 174 起きよ 夜は明けぬ

祈り 天の父よ、私たちは待ちきれません。私たちが未来に備えるために、また周りの人たちが備えられるように助けるのに、しなければならないことを、見ることができるように、わかるようにしてください。イエス様の御名によって。アーメン。

カリフォルニア州 マリブ ／ サンデお・ドウリティ

11月14日（金）

客人をもてなす準備

聖書朗読 ヨハネの福音書 14：1～31

わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

ヨハネ 14：3

甥が私を訪ねてくることになりました。私はワクワクしながら準備を進め、寝室を整えました。甥がリラックスして、良い時間を過ごしてくれるだろうと思うと、その準備自体が私の喜びになりました。その間、甥やその家族のことを思い、お互いの近況を話し合えることを楽しみにしていました。

イエス様は私たちのために場所を用意してくださっています！ ヨハネの福音書14章には、イエス様はご自身がまもなく去られる事をご存じだったので、弟子たちを慰められたとあります。イエス様は場所を備えに行かれました。今も私たちのために場所を備えてくださっています。

さらに、イエス様は再び来ると約束して下さいました。やがて私たちは、イエス様が備えてくださった場所を見る事ができるのです。それまでの間、主が戻って来られるというお約束を思い、慰めを得ましょう。またイエス様の名によって遣わされた聖霊は、私たちに『わたしのいる所に、あなたがたをもおらせる』というお言葉を思い起こさせてくださいます。あなたはイエス様が備えてくださっている場所に行く準備ができますか。

天国を信じることは人生から逃げることではなく

いのちに向かって走ることだ ージョセフD・ブリンコ*

(*編注：英國メソジスト教会の公式伝道者。アメリカの伝道師ビリー・グラハムと
集会・会合を行った。1912-1968)

讃美歌第二編 主イエスは死に勝ち

祈り 主イエス様、私たちはあなたの再臨を心から切望しています。私たちに場所を用意してくださり、慰めの言葉を与えてくださったことに感謝いたします。主よ、早くきてください。イエス様の御名によって。アーメン。

テキサス州 ラボック ／ エディ・フィッツジェラルド

11月15日（土）

好かれることよりも

聖書朗読 ヨハネの福音書 15：18～27

むしろ、キリストの苦しみにあづかれるのですから、喜んでいなさい。

ペテロ I 4：13a

アーサー・ミラーの戯曲《セールスマンの死》に登場する主人公ウィリー・ローマンは年老いたセールスマントです。彼は、自分が世間からどれほど好かれているかによって自らの価値を測っています。彼は別のセールスマントについて、こう評価します。「好かれてはいるが、たいして好かれてはいない。」

私たちは皆、人に好かれたいと思っています。そして時には、人に気に入られようとして必死になることもあります。しかしイエス様は弟子たちに、この世での生き方について、厳しい教えを与えられました。「私の教えに従って生きるなら、この世の人たちと合わないこともあるでしょう。彼らは、私を憎んだように、あなたがたをただ嫌うだけでなく、憎むこともあるのです。」と。

初代教会のクリスチヤン達が最も受けた迫害は肉体的なものではなく、社会的なものであったということを、私たちは忘がちです。確かに、イエス様への忠誠のゆえに命を失い、むち打たれた人も大勢いました。しかし、さらに多くの人々は、イエス様を信じているという理由だけで、仲間はずれにされ、中傷され、嫌われました。それもまた決して軽い迫害ではなかったのです。

私たちは、周囲に合わせ、折り合いよく生きることができます。世俗的な価値観に同調することもできます。群衆の偏見やわがまま、不道徳に合わせることで、好かれることも可能です。しかし、イエス様のように、勇気と善を選ぶなら、イエス様と同じように社会からの非難を受けるかもしれない覚悟を持たなければなりません。光が輝くところには、必ず影が生まれます。（編注：ヨハネ 1：5）

讃美歌 316 主よ、こころみ うくるおり

祈り 私たちの父よ、私たちが誤解や批判、憎しみにあっても、思いやりと自己を捨てる勇気が持てるように祈ります。イエス様にもっと近づけますように。イエス様によって祈ります。アーメン。

ワシントン州 ベリングハム ／ ケン・ダーラム

11月16日（日）

靈的一貫性

聖書朗読 ヨハネの福音書 18：28～32

目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。

マタイ 23：26

今日の朗読箇所の最初の節を、もう一度読んでみましょう。何か目に留まるところはありませんか。律法学者たちは、『汚れを受けまいとして、（異邦人の）官邸に入らなかつた。』とあります。彼らは、偽りの告発、暴力、殺害の企てはどうやら許されるとしても、異邦人の家に入ることは罪だと考えていたのです。

以前、私は、教員で不倫をしている妻に忠告するよう頼まれたことがあります。しかし相談者である夫が話したかったのは、妻が不倫をしていることが許せないのではなく、自分に従順でなくいつも怒っている妻が不満だったのです。彼にとって、妻の不倫は許すことが出来ても、妻が夫に怒って従順でないことの方が大問題だったのです！

私たちは、『ぶよは、こして除くが、らくだは飲み込んでいます。』（編注：マタイ 23：24）また、自分の目の中の梁には気がつかないで、他人の目の中のちりを取ろうとするのです！（編注：マタイ 7：3～5）

靈的な一貫性を保つことは、私たちの努力だけではほとんど不可能です。しかし、聖靈なる神様は、『愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔軟、自制』という御靈の実をもって、私たちの偽善に打ち勝ってくださいます。（ガラテヤ 5：22～23）私たちの希望は神様のみわざにあります！

偽善：後光のある偏見—アンブローズ・ビアス* 『悪魔の辞典』より

(*アメリカの作家、ジャーナリスト。1842-1913 以降消息不明)

讃美歌 500 みたまなる きよきかみ

祈り お父様、どうか私たちが御靈に従い、イエス様が示された信仰と靈的な言行一致を求めて努力するとき、祝福してください。イエス様によって。アーメン。

ネバダ州 カーソンシティ ／ ブルースM・ヘンダーソン